

1905

緊急

一六二 一二七〇五 謂了 一七五〇 電〇七六六五

戦作概

第一護衛艦隊

一海上護衛隊東方面ア・九〇一空ア・九〇一空
(ラオアグ派遣隊・九三六空・マヒラ航空基地)

東通・聯合艦隊口・南西方面部隊

機密第16-1139番電

通報 総長 次官 C E D 口

一 E E B 電令作第一號

ヒ島所在ノ一区所屬東方面哨戒。航空部隊（九〇一空司令官所定ニ依リ「マニラ」「ラオアグ」派遣隊臺灣轉進者ヲ除ク）及遭難艦艇乗員等ハ特令スル場合ノ外 G K F 司令長官ノ指揮ヲ承ケ菲島防衛ニ任ズベシ（Z S E 電令作第三八號關聯）。

通八七三三、於一二二五二〇〇（E.C.）高通 川島（岡崎）

20. 1. 17

1

卷之二十一

鐵
作
國

卷之二十一

卷之三

卷之三

「二二二」山越御路御用二合は二二二工事人頭ヲ左ノ道役頭セリ
「二二三」山越御路御用御用士官以上御用道上管川瀬御友田前田下士
官長六名二段一三三名合計一四五名

人名表。卷之三

通志

國二年冬十八（國五七三、西曆）

海國圖志

4061

概

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一一二一 譯受信 一三三二五〇 譯了 一五二五 電一〇一〇一二五 兵作概 ○ 艦政

長							
軍							
務							
局							
長							
人							
事							
局							
長							
軍							
令							
部							
四							
艦							
政							
本							
部							
總							
務							
部							
長							

支那方面艦隊司令

機密第二一〇九五五番電 二分ノ一、二

宛 軍務局長 人事局長 軍令部第四部長 艦政本部總務部長

戰局ニ鑑ミ 支那方面通信ノ中樞タル上海特別陸戰隊ノ通信力及上海周
邊ノ見張通信ヲ強化セルノ要アル處大海機密第一九一七〇四番電ニ依
ル第五特定通信系ヘノ加入及第一護衛艦隊ヨリ通信協力ノ強化（二波
ノ要望モアリ此ノ際至急左ノ通取計ヘレ度

一、通信長ノ配員

二、電信員三二名臨増（支那方面艦隊機密第一九一七〇四番電要望ノモ
ノヲ含ム）

通一一三一五呂一B九三〇〇一上

新嘉坡

（右上）

（1）

20. 1. 23

三 第二送信所製備ノ九五式短四號送信機三臺ノ電源ハ電動發電機ニシテ長時間ノ運轉ニ不適ナルヲ以テ整流器換装
 四 九二式特受信機五組増備

1910

局長	一課長	二課長	三課長	四課長
正春	工事	講習始	赤城	四〇
第三一通信隊第五分遣隊	第九〇一空マニラ、ラオアグ各派遣隊	機密第二三〇二二五番電	機密第二三〇二二五番電	機密第二三〇二二五番電
第三一通信隊第五分遣隊	第九〇一空マニラ、ラオアグ各派遣隊	機密第二三〇二二五番電	機密第二三〇二二五番電	機密第二三〇二二五番電
第三一通信隊第五分遣隊	第九〇一空マニラ、ラオアグ各派遣隊	機密第二三〇二二五番電	機密第二三〇二二五番電	機密第二三〇二二五番電



8文航作概
二庫本〇

20. 1. 24

- 發 サンフエルナンド派遣隊手崎大尉
- 一、砲爆撃ニ依リ基地施設破壊、飛行機全機炎上
 - 二、暗號書、機密物件焼却處分セリ
 - 三、全員一〇八名（ラオアグ行十七名ヲ含ム）内先ナガ上整行 不明
 - 四、目下ミノマキ海軍大佐ノ指揮下二人リ見張警戒二從事中、今後ノ行動ニ關シ指示ヲ得度。

通一三九二二 天一八八八四 KO 一三一通 片山（太田）

一
三五

譯受信
二二〇六

譯了〇一二三四五六七一〇

至急

東京通信隊

20. 1. 25

宛 人事局長 軍務局長 大海參 一部長 佐世保 人事部長
ベナン防衛兵力極メテ不足ノ現狀ニ於テ第十一潛水艦基地隊ヘ同地陸上防衛上最モ重要兵力ニ付將來情勢ニ鑑シ基地隊ヲ廢止セラル如キ場合アルモ現兵力存置方配慮ナ得度。

通鑑卷二三九

卷一百一十三（六二三五經）

懷永
卷之三

至急

二二五〇 謝了二二四〇 一九一〇八八 作概○
譯信二二一〇二〇

新本聯空

練輪空總隊

隊員人事局



參謀長

上海海軍航空隊二月一日解隊ノ後定左ニ依リ準備ヲ進メテレ度

(1) 在上海海軍航空隊三八期ヲ青島海軍航空隊ヘ四一期ヲ高知海軍航空隊ヘ三九期四〇期ハ聯合航空隊内各隊ヘ分散

(2) 上海海軍航空隊三八期三九期ノ二〇%及右以外ノ各隊練習生ヘ上海空チ舍ム一ノ一二%ヲ值ヘ特ニニ變更。

通一三七〇六号一Bケ三一B横通 石毛(飯田)

1912

20. 1. 26

一 二七 受信一八五五 時了二二一五 連一三〇五一 航組人

譯始二二〇〇

機密第二七一五四一一番通

航組人

練 機 空 総 隊

一 三 空

人事局・一三聯合空

暗號筆

機密第二七一五四一一番通

貴麾下各隊二配屬中ノ偵察員ヨリ特別攻撃隊搭乗員一銀河・偵・
一任務適任者六〇名選抜ノ上今一懸人事局宛電報御通知アリ度。

一九四八年五月三日(昭成)

海

1914

卷之五十八

海

三

臨邑縣志

卷之二十九

本草綱目卷之五十一 經海防醫二十一陽文

局長一詞長

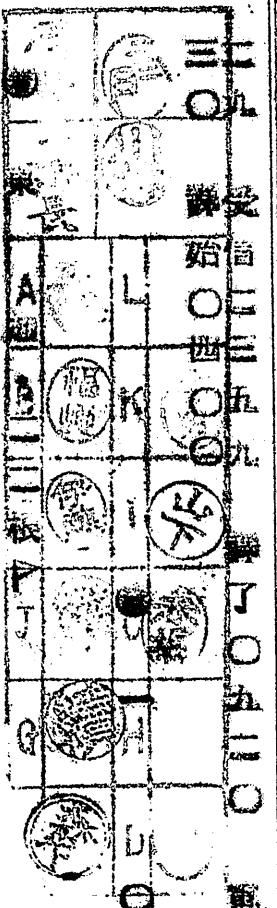
上卷

20.1.30

第十一回

1945

第十信
牒



一

三〇九

始

西

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

二四三
電

20. 1. 30

機密 第二九一八二〇番電

電 話 部 長

東 一〇一 一〇二 機料廠長 一〇一 梶タラカン支廠長
通報 軍需局長 軍需局長

軍需機密 第二九一五三五番電
貴駆駆逐係連隊總定者ニテ 路南ニ付機甲ノモノ左ノ通
〔燃料廠美特二名（辰川ヨシヲ若松信光） 刑特一名 工員四三名
口一〇二 燃料廠ナシ・

通一五九〇九 五一〇ケ三（六二三五瓦）十通

大石（渡瀬）
軍

1916

二二二一受信二一五六時了〇〇四〇電〇一〇七一作戰〇航本

講始〇〇五

至急

根

20.2.3.

停

電

南西方面艦隊

口

三

機密第〇二〇九四〇番電

九五五空司令

九五五空ハ本部ラムニ移シ一部派遣隊ヲ「ブルエルトブリンクセス」
揮官岩島大尉ニ存置セリ小官三一特別根據地隊ニアリ。

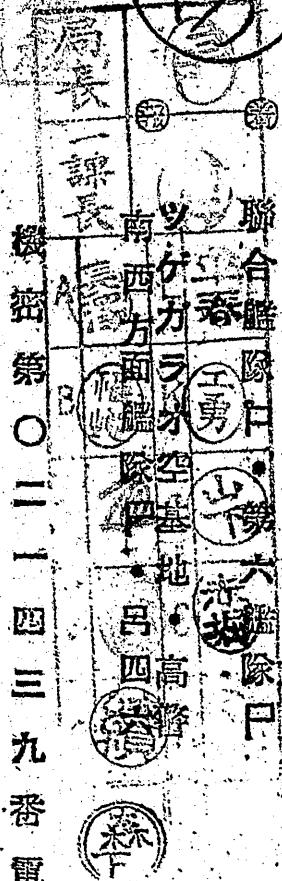
通一一一、天Bラ十二、四七〇五KC一高通

田原（見）

二二二二受信一七五四譯始一八一〇電一八五五電〇〇九二一

航作本・參續本

緊急
第一聯合基地航空部隊口



20. 2. 3.

通報 アベリ連綴基地隊
高雄へ轉進スペキ當隊搭乗員ノ殆ド全部ヘ既ニ空輸シ終リ其ノ他航空要員ニシテ二月十日頃迄ニルソン北部ニ輸送シ得ルモノ約ニ五〇名ニシテ其ノ大部分ヘ驅逐艦輸送中止ノ爲目下「アベリ」ヨリ「ツケガラオ」ニ引返中ナリ當隊トシテハ之ガ轉進ヘ專ラ空輸ニ依ルベク準備中ナルヲ以テ差當リ潛水艦ハ陸軍搭乗員輸送ニ充當セラレ度尙陸軍搭乗員數等ニ付テ四航軍ニ照會中。

1917
四一〇七八
四一〇二六五〇
清 水 (吉 一)

1918

至急

受信一〇三五〇 譯文二二〇〇 二六八六
譯文二二〇〇 二六八六 作機本



20. 2. 7.



聯合艦隊司令
三一一根四

機密第〇一一五四五番電

發九五五年司令

當隊ルソン全線偵察中ニ未歸還機計三機、出セシモニ二機分ノ搭乗員ヘ
生還セリ（何レモ危篤絶望ナリ）島内一名死去セリ）一機ハバタン半
島ニ衝突一機ハ島内ニ不時着セルモノナリ共ニ陸軍ノ援助ヲ受ケ。

（東通註 本電誤字極々多々再送）爲遲延
通一四四二 五二三二十八一一二八一〇〇〇 三十一通

五 分 遣

奥山（山中）

1919

二三受信

譯始二〇一五

譯了二一三〇

電〇〇一四五五四〇七〇番電
電〇〇一四五五四〇七〇番電
電〇〇一四五五四〇七〇番電

至急

第

佐鎮擔任區潛水艦行勸報告讀信監所
東京、佐世保、吳各通信隊

共符

機密第〇三一二三五番電

三分ノ一六三

宛 大臣 総長 長官 吳鎮長 吾 佐鎮長 官 沖根司令官

通報 第四海上護衛隊司令官 門司在勸武官 伊萬里在勸武官

左ノ豫定ニ依リ甲標的T型三基佐世保經由沖繩ニ向ケ進出セシム

一編制指揮官大尉神山正之甲標的第二〇一號（中尉勝又祐一）第二〇

二號（中尉飯田和信）第二〇三號（中尉三笠清治）嚮導艇芙蓉丸

指揮官整備長下士官七名兵五名乘艇（二月三日吳基地發長島四日宇部五日六連六日博多七日川内八日佐世保爾後樺島串木野山川西浦切石名瀨山村和御前崎ヲ經由連天ニ同フ日時從報 便用速力（八號）

通一一六二二一呂一四ケ四（一四）吳通（武相澤生（漸ひ））

20. 2. 4.

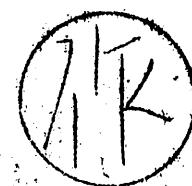
概木晝間浮上航走夜間假泊
 三味方識別甲標的中央日ノ丸前後部ニ各々白旗二
 四途中警戒保安ニ候シ特ニ御配慮ヲ得度。

二 三 受信二二四五
四 誰始〇〇三七

共

特

作概〇
艦政・潛艦



佐 鎮 播 任 機 機 密 第
通 通 東 通

行動報告着信監所	通	通	通	通
三	二	一	五	四
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○



指揮官

第一特別基地隊司令官
佐長 指揮官 大臣總長 G.F. 司令長官 吳鎮長官 佐鎮長官 沖繩根據地隊

通報 第四海上護衛隊指揮官 門司在勤武官 伊萬里在勤武官

左ノ豫定ニ依リ敷設標的甲型三基佐世保經由沖繩ニ自力航行進出

セシム

一、編制指揮官大尉神山正之敷設標的第二〇一號（中尉勝又祐一）
第二〇二號（中尉飯田和信）第二〇三號（中尉三笠清治）。
通二七四一呂二八ヶ四（四九一五cc）佐通放、齋藤（淺岡）

20. 2. 4.

二二三 受信 一七二〇 電子一八三一 電〇一三四一八

電〇一三四一八

作機本

作戰緊急

ツゲガラオ航空基地

機長	第〇〇二二四	副官	電部	赤城
機長	第〇〇二二四	副官	電部	赤城
機長	第〇〇二二四	副官	電部	赤城

一分ノアニ

20. 2. 4.

1922

發 江村中佐

宛 參謀

一〇二〇 G.B 機密 第〇二二四三一 番電 聞聯

六 海軍

(1) 二四挺

(2) A.F 搭乗員二〇

(3) 高等科 整備員三五

一五九〇、一五九一、星一〇二、ラ十八、一〇二、六五〇、一〇二、G.F.G.B.A

櫻井、片山、小野田

(二) 普通科幹備員七〇

(3) 電信員一〇

△其ノ他無章（主計科醫務科ヲ含ム）一八三名右人員ツゲガラオニ明日迄ニハ集結完了ノ豫定

二、陸軍一比島一四航軍竹森參謀ト交渉ノ結果

(1) 搭乗員七〇名

(2) 備員（工員ヲ含ム）五〇名

(3) 電信員三〇名

(4) 其ノ他一九〇名特ニ輸送ヲ要セズ

右人員ボトリナヲニ集結中

三、「アバリー」ハ輸送ニ不適設備撤去ボトリナヲハ揚塔設備完備。

1924

二五受信一〇〇〇譯了二三〇〇電〇〇二二九七作概〇

一五

機密第〇五〇〇三五番電

二分ノ一、二

符

局長				
副長				
A	B	C	D	E
聯合艦隊	通			
一	二	三	四	五
航空艦隊				
六	七	八	九	十
共				
符				

機密第〇五〇〇三五番電 二分ノ一、二

20. 2. 6th

發 第五戰隊司令官

宛 軍務局長 人事局長 軍令部第一部長

大海機密第〇二一二五七番電ニ依リ第五艦隊解隊セラレ本職當方面ニ
於ケル海上部隊先任指揮官ヲ命セラル S.B. 潛雷令作第一號ニ依リ舊第二
二遊擊部隊指揮官ノ任務ヲ繼承セシメラレ第五戰隊第四航空戰隊第二
水雷戰隊（一部缺）第二十六航空戰隊指揮シ速ニ作戰ノコトニ發令セ
タレタルトコロ當司令部ハ內容貧弱ニシテ其ノ任務ヲ遂行覽束ナキモ
通一四四八 呂一日ケ四（一七五九〇）六 十送（與島）月芳（岩崎）（印）

1925

ノド認ナラルニ付此ノ際各艦至急左記人員増員ノコトニ取計ヘレ

度追テ舊第五艦隊司令部ヨリ充當ヲ可ト認ム

一、參謀一名（ガルベク水雷主務參謀）

二、電探技術士官

三、電信長

四、特信班員（現員）○

五、電信員一〇。

(2)

二六

受信一七一四 譯了 一七五八

二七五六 作

緊急

三一一根

第三南遣艦隊一一移動通信隊

南、西方面艦隊口。?

(通報表示) 南西方面部隊情報着信艦所

竹

機密第〇二〇二二二番電

四日二三〇〇頃戰車二乃至四右ハ迫擊砲ヲ有スル敵「バラナク」方面ニ來襲相馬中隊之ト交戦(中隊長小隊長戰死)敵ハ橋ヲ奪取侵入セルモ機ヲ失セズ火工兵器ノ集中射撃並ニ一個中隊ニモ拘ラズ斬込敢行〇一四〇之ヲ鑿退セリ橋ハ直ニ爆破ノ豫定。

通三一七五 於十三(七五六五)
K (一九二六年)

富田(森)(田)

20.2.7

昭和二十六年五月五日

練空、航本

符

至急親屬

機密第〇五一號三番電
東通共

發 高雄警備府司令長官

宛 次官 次長

當方面ニ於ケル練習航空隊教育、實情へ高警機密第〇四一〇四九番電及第三〇一六五二番電、處ニシテ此ノ上教育實施へ至難ナル外加ヲルニ一方戰局逼迫ヘ此ノ際全力陸戰配備ヲ促進セザルベカラザル情況ニアリト認ム依テ戰勢ノ推移ニ依リ將來教育ヲ再興シ得ルニ至ルキテ一時全面的訓練習生教育中止ス。

（電信課註 本電二三未着）

昭二六年五月五日（一九四一年五月五日）

1927

1928

人

工作
作業

緊急

六月一七一二 謂了一八四六 電〇二七六五

合作特種〇

三一通第五分遣隊

● 第三南遣艦隊口・第八移動通信隊

● 大海特務班・高醫・第一航空艦隊口・各艦隊各鎮各醫各參謀長

機密第〇六一二二〇番電

發 南西方面艦隊參謀長

在「ホウガボン」第三一通信隊特信有章兵（約五〇名）及特信關係
准士官以上（八名）ハ全部一AP司令部附ニ一時轉勤「小コウ山」
方面ニ轉進セシメラルルニ付便宜「ツゲガラオ」「バタリナオ方面
ニ進出シ臺灣行輸送便ヲ待タシメラレ度。
通三一六三 呂ニBラ十八（一三五二〇〇）高雄 相澤（森田）

20. 2. 7.

1929

二六

受信一四二四一零了一六四〇電〇二七四四作概
譯始一六二〇

20.2.7

イ方

着 南 西 方 面 艦 隊 口

一 航 空 艦 隊 口

三 南 遣 艦 隊 口

機 密 第 〇 六 一 三 〇 一 〇 一 番 電

發 聯 合 艦 隊 參 訂 長

貴 方 面 ニ 於 テ 拔 群 ナ ル 功 繡 ア リ タ ル モ ノ ハ 取 取 ズ 表 彰 シ 感 狀 授 與
ノ 價 値 ア ル モ ノ ヘ 其 ノ 目 業 方 ニ 報 告 ア リ 度 當 方 ニ テ ハ 簡 単 ナ ル 資 料
（ 戰 圖 概 報 詐 報 表 彰 狀 等 ） 手 繕 ニ 依 リ 速 ニ 感 狀 ナ 授 與 セ ラ ル ル オ ト ハ
取 訂 ナ 豫 定 。

通 三 一 一 三 甲 一 ピ ラ 十 八 ハ 三 一 一 九 二 〇

石 毛 （ 増 田 ）

二

一〇

譯受信
○○五〇四五
譯了〇六五〇
電〇四三八八
災病◎

④ 一 南 遣 艦 隊 口

④ 聯 合 艦 隊 口 · 橫 · 鎮 · 氷 川 丸

機密第〇九一七二六番電

一、作戦上ノ都合ニ依リ一〇一病勤務中ノ日赤看護婦五四海軍看護婦

一一本月中旬氷川丸ニテ内地歸還セシム

二、一〇一病在院患者ハ現狀一〇〇〇名ニシテ現定員ニテハ病院戰務遂行上ノ支障極メテ大ナリ

三、右對策トシテ氷川丸ニ乘組衛生兵曹衛生兵中ヨリ一〇一病ニ一時轉勤セシメラレ度。

通四九三五 天一ビラ一一(六二三五號) 一〇通 海

稻葉(金森)

電
子
信
號

20. 2. 11

第十
課

卷之二十一

卷之三

三

卷之三

卷之三

二 窗 猫

卷之三

受診患者（海外子会・又）一〇一三名
重症患者肺炎六慢性腸炎三流腦九
人室患者肺炎三六慢性腸炎三流腦三計

六患者現狀

- 二、死亡者ハ流腦ニ依ルモノ減少セルモ肺炎及慢性腸炎ニ依ルモノ依然多シ尙新軍醫長未着任總除軍醫長派遣ノ上對策指示アラバ好都合ナリ。

《東漢書》本傳誤作成少卿，近人

通五九三三

端 D 緣信易

威
懶
(小
林)
海

三

20. 2. 12

1932

二
一
三
至
急

譯受信始〇〇四一五	〇〇五	譯了〇四四八電〇〇〇五一
機密第一一七四八番電	三分ノ一、二、三	航作概本〇
横須賀、豊橋各航空隊・一〇一航戦△		
通聯	赤城	
小崗山司		

令部

發

一 A F 參謀長

聯合艦隊參謀長

通報 大海參一部長 航空本部總務部長

一 在菲島當隊要員ノ菲島臺灣間作戰輸送ヘ操縱員ノ關係上九日ヲ以テ

一 應打切トシ聯合艦隊電合作第四七九號ニ依リ 橫須賀航空隊派遣隊
ヲ原隊ニ復歸セシム

二 自一月九日至二月九日右作戰輸送人員左ノ通

通五九六九
五九八五
五九八七

呂一 B ケ四 (四七四二、五〇、五〇 G B)

東野 (浅福岡田)

20. 2. 12.

(1) 使用機種 延機一式陸攻五一機 零式輸送機二一機 月光二機 天山二機
 機端雲一機零式水偵五機 計八二機
 (2) 輸送人員 搭乗員准士官以上一二八名 下士官兵五四二名 整備員准士官以上三〇名 下士官兵一八七名 司令部副係員電信員其ノ他一一一計一〇六〇

(3) 被害一式陸攻九(自爆)七〇二飛行隊一未歸還五七〇二飛行隊二
 豊橋航空隊一破損 K 七〇二飛行隊二 豊橋航空隊一不時着横須賀航空隊一機 第一〇二一航空隊一機一零式輸送機不時着一零式水偵被彈不時着一戰死搭乗員二四便乘者五四右ノ外協力飛行隊中地上被爆ニ依リ大破炎上セシモノ横須賀航空隊一式陸攻二機

三次回作戦輸送ハ十八日開始ノ豫定ニテ現在ツゲガラオ

左記殘留シアル要輸送人員尙二五〇名(既計畫ニ依リ潛水艦輸送人員ヲ含マズ) 近日同地着豫定ノモノ四四〇名計六九〇名(整備員電信員六〇ニシテ搭乗員ナシニシテ今後「クラーク」方面ニ對スル

1934

常續的物糧投下せざる現地要望量彈藥ノミニテ約七五屯一當隊兵力ノ獨り能クスルトヨロニアラザルヲ以テ協力兵力ニ關シ改メテ考
慮相煩度。

東通註 G E H 通報處理濟

20. 2. 12

(回)